函館の教育のあり方検討協議会（第１回）会議録

日　時	平成２８年６月２８日（火）　１８:３０～２０:１５
場　所	南北海道教育センター　大会議室
出　席	委　員　田　中　邦　明（北海道教育大学函館校教授） 齊　藤　　縁（北海道教育大学附属函館幼稚園副園長） 山　田　幸　俊（函館市小学校長会事務局長） 毛　利　繁　和（函館市中学校長会事務局長） 中　島　　悟（北海道高等学校長協会道南支部長） 中　村　和　代（函館市ＰＴＡ連合会事務局員） 絹　野　重　治（函館市社会教育委員） 竹　内　正　幸（函館商工会議所事務局長） 井　上　実　香（公募） 事務局　山　本　真　也（函館市教育委員会教育長） 小　林　良　一（生涯学習部長） 木　村　雅　彦（学校教育部長） 佐　藤　ひろみ（生涯学習部次長） 鶴　喰　　誠（生涯学習部次長） 町　谷　仁　志（生涯学習部スポーツ振興課長） 加　賀　重　仁（学校教育部学校教育課長） 柴　田　　成（学校教育部学校再編･計画担当課長） 寺　本　公　彦（学校教育部教育指導課長） 小　松　将　人（学校教育部教育指導課指導主事） 村　上　貴　洋（学校教育部学校教育課主査） 松　本　　大（学校教育部学校教育課主事）
欠　席	委　員　大　場　みち子（公立はこだて未来大学教授）
傍　聴	４名

１　開　会

会議の公開と報道関係者の取材を承認。

出席者９名。過半数を超えているため，会議成立。

２　教育委員会あいさつ

（山本教育長）

皆さん，こんばんは。

委員の皆様には，本協議会の開催にあたり，委員の委嘱を快く引き受けていただき，感謝申し上げる。

本協議会は，函館の教育総体の有り様について議論いただく場である。

函館の教育については，平成２０年にスタートした函館市義務教育基本計画という計画をもって，それをベースに推し進めてきた。それが来年度において計画期間を終了する。これから策定しようとしている函館市教育振興基本計画は，教育総体の振興基本計画である。義務教育のみならず，生涯学習も含めた計画，教育総体に渡る計画である。その議論をお願いしたい。

１０年の長期計画であるが，見据える先を２０年先に持つ，そしてその期間の教育をどうしていくかという議論となるが，委員の皆様にもぜひ長いスパンで物事を見据えながら，今後の函館の教育の有り様についてご議論いただければと思う。

一方で，市は来年度からスタートする総合計画の改定作業に入っており，函館市における将来像についての議論がもう一方では進んでいる。そちらの議論も見据えながら，函館がこれからどういう進展をしていくか，その中で教育はどのように組み立てられるべきかといったような議論になっていくだろう。

そのベースの課題として，人口減少と少子高齢化がある。その中で学校教育はどうあるべきか，生涯学習はどうあるべきか，現実問題としては，生涯学習の分野でも将来の担い手がどんどん不足しているし，学校では，子どもたちの数がどんどん減ってきており，学校再編を進めている。

函館の街という，広がりにも目を配っていただきながら，将来の姿を想定しながら，出すべき施策というものを組み立てていただければと思う。

これまでの義務教育基本計画は，学校教育関係者や保護者，地域住民にとって，ひとつの道しるべとなってきたと思う。今，策定しようとしている教育振興基本計画もぜひ市民みんなが共有できる基本計画となればと思っている。

委員の皆様には長丁場となるが，闊達な議論をいただければと思う。

３　委員および事務局紹介

≪事務局から委員と事務局職員を紹介≫

４　函館の教育のあり方検討協議会について

≪事務局から資料１，２に基づき，協議会の概要を説明≫

５　議　事

（１）会長・副会長選出

（事務局）

函館の教育のあり方検討協議会設置要綱第５条第２項において，会長・副会長は委員の互選により定めることとしているが，会長・副会長の選出についてご意見あるだろうか。

（絹野委員）

事務局のほうで案があればお願いしたい。

（事務局）

事務局からの案という意見があったがいかがか。

≪異議なし≫

（事務局）

それでは，会長を田中委員，副会長を毛利委員にお願いしたいと思うがいかがか。

≪異議なし≫

（事務局）

それでは，会長に田中委員，副会長に毛利委員を選出するということで決定する。田中委員には会長席へ移動していただき，一言ご挨拶をいただいてから，これからの議事進行についてお願いしたい。

≪田中会長および毛利副会長，会長・副会長席へ移動≫

（田中会長）
皆さん，こんばんは。
私は，今，大学で環境教育・理科教育を担当しており，教員になる学生を指導している。先ほど教育長からの挨拶にもあったが，２０，３０年後を見据えた計画を策定するという大役であり，身の縮むような思いである。
本協議会は，私たちの未来，子孫の未来を決める大事な会議であるが，策定にあたっては，皆様から忌憚のない意見をいただき，フランクにお話いただきたい。
長い期間であるが，函館の教育を方向付ける大きな計画であると思うので，皆様のご協力をお願いしたい。

（２）函館市教育振興基本計画について

（田中会長）
それでは審議を進めてまいりたい。本協議会の協議事項「函館市教育振興基本計画の策定」について，事務局より説明をお願いしたい。

≪事務局より，資料３に基づき説明≫

（田中会長）
事務局の方から資料について説明があったが，資料の「まちづくり」「多様性の尊重」「縦の接続」という３つのアプローチに対するみなさんの意見や感想を伺いながら，全体的な思いを聞き取りたい。また，次回の会議までに揃えてもらいたいデータがあれば要望を伺いたい。毛利副会長からお願いします。

（毛利副会長）
事務局から３つのアプローチが出たが，「縦の接続」については，生涯教育という点で幼稚園入園前の段階からの話も行う必要があると感じており，小さなお子さんを抱えた家庭の現状等も私としては非常に興味深く，これからの函館の未来を語るには必要だと思っている。

（田中会長）
中村委員，お願いします。

（中村委員）
アプローチのうち「まちづくり」と「縦の接続」はイメージできるが，「多様性

の尊重」については，多様性とは何か，よく考えていかなければならないと思っている。子どもを持つ親として，これから函館で生活していく子どもたちのために親目線で考えていきたい。

（田中会長）
竹内委員，お願いします。

（竹内委員）
函館商工会議所の事務局長をこの４月から務めているが，それまでは検定試験を担当しており，教育の中でも特にキャリア形成の部分が重要だと思っている。変化する社会の中で，どういったキャリアを教育として身につけていけばいいのか，というのは興味があって重要なところだと思う。
また，「はこだて検定」の作問に関わっており，人口減少というのは，すごく大きな問題だと思うので，それの１つのアプローチとして，ホスピタリティの心を育て，地域を好きになってもらおうとする試みを教育に活かすことが重要だと考えている。
わたしどもの会員となっている会社の経営者の方々は人手不足だと言うが，函館出身の学生は地元にどういった求職が分からず，他都市に出て行ってしまう。そういった情報をどうやって行き渡らせるかという仕組みもすごく重要だというふうに思っている。

（田中会長）
絹野委員，お願いします。

（絹野委員）
バレーボール協会の中でソフトバレーボール連盟の会長を務めていた。ソフトバレーは小学生から高齢者まで生涯にわたって楽しむことができるスポーツの一つであることから，生涯にわたっての観点を提供できればと思っている。

（田中会長）
井上委員，お願いします。

（井上委員）
養護助手として勤めているが，その学校でも特にレベルの高い生徒はほとんど函館には残らない。関東や海外に行ってしまう。生徒との関わりの中で教育について

の相談があることから，子どもや保護者の生の声を伝えていきたいと思う。
　また，バレエにも関わっているので，文化面でもいろいろ考えることがある。
　「まちづくり」の視点という点では，スポーツではアリーナが建ったが，今，市でも検討されていると思うが，市民会館の建て替えについての議論もある。
　高等教育については，資料を頂いて，実際に働いていることと繋がっている部分が大きいと感じている。

（田中会長）
　要望についてはなにかあるか。

（井上委員）
　函館には高等教育機関が充実しているという説明だったが，医療系や芸術系の大学がない。特に医療系については，医学部志望や，看護でも大学へ進学したいという生徒が多く，医療系の大学の整備について市はどのように考えているのか，興味がある。

（田中会長）
　中島委員，お願いします。

（中島委員）
　函館に来て驚いたことは，歴史と伝統のある私立高校の生徒が外国人観光客のガイドを行うことや，老人ホームで奉仕活動を行うといった取組が進んでいること。函館に生まれ育った子どもたちに函館の良さを再認識させるためには，そういった，生徒が街の方に出て活動するような取組が必要だと感じている。
　現実的に直面する問題としては生徒数の減少が厳しくのしかかってきており，魅力ある学校づくりが求められるが，そのためには地域の人達の意見を教育活動に取り入れていく必要があるという思いを持っている。

（田中会長）
　山田委員，お願いします。

（山田委員）
　今日の説明を聞き，人口減少は進んでいるが，函館はどのくらいの人口が一番適正規模というか，どのくらいの人口を望んでいるのかというのを思った。亀田市と合併して人口３０万人を超えてから減る一方だが，どの程度の規模の人口が良く

て，どういう割合の年齢構成や職業の割合が函館に合っているのかと思った。
　大学進学率や転出者に関して言えば，子どもたちは仕事が無いと言うけれど，函館で会社を経営している元教え子に聞くと，人材不足，人手不足だという。
　また，最近，奨学金を返済できなくて困っている子どもたちの話を聞く。
　日本は，非常に教育に金を惜しんでいるなと感じている。
　函館は，他の地域の方から訪れたいと言われれば，いろいろ案内できるけれども，住みたいって言われたら，胸を張って応えられるかどうかと感じている。

（田中会長）
　齊藤委員，お願いします。

（齊藤委員）
　「まちづくり」については，故郷から離れて仕事をしていた友人から函館に帰ってきたいと言う声を聞くことが増えているので，新幹線が開通したことは,IT関連の仕事をしている人にとっては東京に本社を構えなくて良くなるなど，函館に人を呼び戻す大きなチャンスではないかと感じている。
　「縦の接続」については，学びの基盤ができあがる幼児教育またはその前時期の子どもたちの教育に，投資をしなければならない時期だと強く感じている。
　「多様性」については，野菜ソムリエという資格を取得し，パリ，札幌および東京などでプレゼンテーションを行ったが，函館の「食」については世界から認められていると実感したので，それを資源として，子どもたちの食育に力を入れていけたらよいと考えている。

（田中会長）
　一通り意見を頂戴したので，最後に３つのアプローチについての私の解釈をお話したい。
　「まちづくり」については，リーサスという人口シミュレーションによると３０年後には人口が半分になるとされており，このまま行くと街が消滅してしまうかもしれない。「まちづくり」の視点を教育の中に植え付けるということは，コミュニティの持続性を確保する重要な鍵になると思う。
　「多様性」については，いま経済協力機構，OECDがキー・コンピテンシーということを提唱しており，未来に生き続けられるための基本的な能力として，１つ目は，コミュニケーション・ツールを自由自在に使うことができる能力，２つ目は，異質な集団と交流し，意見や宗教，文化が違う人たちとうまくやっていける能力，３つ目は，連携協力しながら自立性を持つ，これを基本に日本の教育政策が見直さ

れている。要するに，これから函館の街に他の国の人々やいろんな文化が入ってきた時に，それをちゃんと受け入れて我が物にしていく，そういう「多様性」は発展性の鍵になると思っている。

さらに「縦の接続」では，教育の話に限って言うと，幼小中高大，教育と社会が繋がって，地域で育った人材が地域で世代交代していく。人材のサイクルというか，世代交代を作っていくルートをつけていかなければならないと思っている。竹内委員がおっしゃった「はこだて検定」，函館学は，自分の地域という意識を持たせるために，小学校の必修科目になってもいいと思っている。大学生を対象にまちづくりの授業を行っているが，地域の課題の問題解決を通じて，他の地域から来た学生が函館で就職したいと言い出している。

キャリア教育はまだ伸びしろがあると思っているが，わたしの要望として「縦の接続」がどうなっているかのリアルをつかむ必要があると思う。函館の進学率は北海道の平均より低い位置にとどまっており，「縦の接続」というのは急務である。高等教育自給率，つまり，この地域の高校生がどれだけこの地域の高等教育機関の恩恵を受けているのか，そういったパラメータを次回までに作っていただきたい。

最後「その他」について，事務局から何かあるか。

（事務局）

第２回の会議の日程は８月中の開催予定となっており，委員のみなさんと日程調整のうえ後日案内する。

（田中会長）

それでは本日１回目の協議会を終了させていただく。ありがとうございました。

６　閉会